

〔東大寺大佛殿御常燈料田島記録〕田數所當等事

作興三左衛門殿

島今ハ田也
一段賀茂

荷、他所公事無之、○中略

本地子七斗

作彌六大夫

一段賀茂

本地子六斗

荷、他所公事無之、

本地子八斗

作覺圓房 カサギ

〔増升ニテハカリテ八斗内ニ升百姓ニ返之、本升小間、此升タムレバ
二升アマル也、他所公事無之、歲末堅木一荷、八斗内一斗ハ請料也、

〔雍州府志七土産〕斗量 凡盛米穀一升之方器是直謂升、其式四方内自一隅至一隅上横鐵準、量米穀時、滿其準爲限是謂弦掛升、鐵準之橫升上也似施弓弦之謂也、洛下伊豆倉屋并鍛冶屋清水某、斯兩家造之、貼鐵印而賣之、

〔度量雜記〕難波家古升、升也、裏書云、方面五寸、堅深二寸五分、立積六十二分半、以養老大尺量、長保新製官升寸法立積全同、此升慶長新製之京升以前、天下諸國通用、

〔日本永代藏五〕世渡りには淀鯉のはたらき

萬の賣掛する共、其人と次第に念比にならぬやうに常住の心入、商人のひみつ也、○中 有時西陣の絹織屋へ俵米賣初置替の約束も年々かさみて算用はあひながら、その銀ふさがりて手まはしなりがたく、後は確の音たえて鉤掛升のみ残れり、掛商ひには分別有べし、

〔西鶴織留〕所は近江蚊屋女才覺

扇子屋といふ人、むかしはすこしの酒片見せに米商賣しけるが、内義才覺にて、手づから鉤かけ樹を持て米酒にかぎらず、わづか一升買する程の貧者には、利徳かまはず斗よくして、手ひろふ見せげる、